

# 技術・家庭科（家庭分野）研究部会

## I 研究テーマ

未来社会・生活をつくる力を育てる技術・家庭科教育

～「A家族・家庭と子どもの成長」における題材の工夫～

## II 研究テーマ設定の理由

本部会では、一昨年から「A家族・家庭と子どもの成長」の内容に目を向け、「体験的な学習」を取り入れた授業の実践を目標にして研究を進めてきた。特に昨年度は、「家族と家庭生活」における生徒の実態調査として『家庭と地域に関する調査』を市内各校で実施し、同じ甲府市内でも地域によって実態に大きな差があること、地域のことを知らない中学生が多いが地域のことを真剣に考えている生徒もたくさんいることがわかった。また、認知症サポーター養成講座の受講を通して高齢者の問題についても考えた。さらに、「幼児の生活と家族」では、赤ちゃん人形をだっこする等の疑似体験を通して、幼児の身体の発達を理解させる授業も試みたが、実践する授業の題材選定にまでは至らなかった。

そこで、今年度はまず、授業の題材を「家族と家庭生活」「幼児の生活と家族」どちらの内容にするかを検討し、新指導要領から設定された「生活の課題と実践」として扱うことで、これからの生活を展望する能力と実践的な態度をはぐくみたいと考えた。

## III 研究の経過と内容

### 1 研究の経過

- 4月11日 研究組織づくり・研究テーマの確認
- 5月14日 研究内容の検討
- 6月18日 各校の授業内容報告と夏休みの課題作成
- 7月31日 Aの内容の授業計画（実施学年と授業の題材）検討
- 8月16日 学習会「中学校家庭科教育における市民的資質を育む授業の検討」
- 9月3日 夏休み課題についての考察・3年間を見通した指導計画の検討
- 10月1日 県教研レポートの検討
- 11月5日 県教研の還流報告とワークシートの検討
- 1月21日 今年度のまとめと反省・来年度の研究内容の確認

### 2 研究の内容

本年度は、昨年度までの「体験的な学習」を位置づけた題材の研究をもとに、授業の題材を「家族と家庭生活」の中の「家庭と地域のつながり」にしぼり、授業の実践に向けて以下のような研究を進めた。

(1) 夏休みの課題『地域について調べよう』の作成と実施

昨年度実施した『家庭と地域に関する調査』では、市街地の学校ほど地域に対する関心が薄く、自分の住んでいる地域のことを知らないという実態が明らかになった。そこで、まず生徒が自分の住んでいる地域に目を向けるきっかけを作る必要があると考えた。そのために、夏休みに家族から「自治会の組織や役割」「地域でおこなわれている行事や活動」について聞き取り調査をして1枚のレポートにまとめる課題を作成し、市内の1年生を対象に実施した。

(2) 「中学校家庭科教育における市民的資質を育む授業の検討」学習会

8月16日に、山梨大学教育人間科学部の准教授をお招きして、『中学校家庭科教育における市民的資質を育む授業の検討』という内容で講演をしていただいた。

(3) 3年間を見通した指導計画の作成

「A家族・家庭と子どもの成長」の内容を充実させるために、2014年度入学生のための3年間を見通した指導計画を作成した。

#### IV 研究の反省と課題

本年度の研究で、実践する授業の題材を決定することができ、授業の方向性が見えてきた。昨年度の実態調査で地域にあまり関心をもっていなかった生徒も多かったが、聞き取り調査の課題をさせることで少しずつ地域に目が向けられるようにもなったし、生徒のレポートを通じて、教職員自身が勤務校の地域について知ることもできた。また、昨年度の実態調査アンケートや今年度の聞き取り調査の課題を位置づけながら、3年間を見通した指導計画を作成することができた。

さらに、山梨大学准教授の講演によって、私たちが行おうとしている「家庭と地域のつながり」における課題解決学習が、社会の一員としての自覚につながる大切な学習であることを改めて認識できたことも大きな成果だと思われる。

しかし、聞き取り調査の課題では「自分の住んでいる自治会」を想定して実施したが、自治会に入っていない家庭もあり、地域の範囲を「甲府市」まで広げて考える必要性も感じたし、「生活の課題と実践」の中で、生徒が設定する課題を想定し、教職員がその課題を手助けしてもらえる機関（各地域の自治会、市役所、ボランティア団体等）とのつながりをもっていなければならないとも感じた。

今後は、今回実施した聞き取り調査のレポートが、「生活の課題と実践」の課題設定の参考となるように提示の仕方を工夫したり、「家族と家庭生活」の部分における評価規準を作成し、毎時間毎の指導案およびワークシートを作成し、その指導案とワークシートを実際に使用した授業を実施していきたい。